

# 木曾川上流水防災協議会(愛知ブロック) 第1回開催概要

## 【設立主旨】

今後の気象変動により発生頻度が高まると予想される施設能力を上回るような洪水に対応するため、隣接する自治体や県、国等が連携・協力して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とする。

## 【開催概要】

日時：平成28年7月5日(火)  
会場：一宮地場産業ファッションデザインセンター2階 第1会議室  
出席：一宮市長、稲沢市長、江南市、犬山市、扶桑町、名古屋地方気象台、尾張県民事務所長、一宮建設事務所長、水資源機構中部支社事業部長、木曾川上流河川事務所長、愛知県河川課長、木曾川下流河川事務所長、新丸山ダム工事事務所長  
議事：①木曾川上流水防災協議会の設立について ②減災のための目標(案)について ③目標を達成するための具体的な取り組みについて ④意見交換  
決定事項：5年間で達成すべき目標  
木曾三川で発生しうる大規模な水害に対し、「住民の主体的な避難」「水防活動の強化」「社会経済被害の最小化」を目指す  
次回協議会：8月開催に開催予定の幹事会において「取組方針(案)」の協議を行い、委員の了解を得て策定。  
8月中に取組方針の公表を予定。

## 【主な発言内容】

意見交換では、減災のための各自治体での取り組みについて一宮市長、稲沢市長、愛知県河川課長よりご意見をいただきました。

一宮市長：市長レベルは様々な会議で顔をあわせるし、携帯電話も知っている。実務者レベルでいざというときに連絡が取れることが重要なので、会議等で顔を合わせるなど顔を知っている事が大切。本協議会の幹事を見ても危機管理部局と建設部局が入っており、普段付き合いの無い方もいると思う。危機管理部局と建設部局のどちらが良いというわけではないが、良い方法を考えて頂きたい。

稲沢市長：協議会を設立することは良いことだが、現存の会議や組織との整合をどのように取っていくのか考えていく必要がある。尾張水害予防組合では、管理者を持ち回りで行っているが、水害予防組合の管理者が法的にすべきことが明確に決まっていない。水防では消防庁が現場を担当することとなるが、尾張水害から連絡がくるわけではなく、各自治体が判断することとなる。尾張水害予防組合の役割について我々も考えているところ。  
既存の会議では、木曾川洪水予報連絡会もあるが、うまく機能しているのだろうか。



第1回木曾川上流水防災協議会(愛知ブロック)の開催状況



中野一宮市長



大野稲沢市長

中日新聞 平成28年7月9日(土)朝刊 22頁尾張版

●「木曾川上流水防災協議会」の愛知側の初代会合 5日、一宮市内であった。木曾川、長良川、揖斐川の木曾三川流域の住民に洪水への意識を高める狙いで、関係自治体などが情報を共有する協議会。一宮、江南、稲沢、犬山の4市と扶桑町の代表者らが集まり、減災の目標や具体策を話し合った。8月末をめどに取りまとめる。協議会事務局の担当者は「愛知側は大規模な水害が起きていないが、住民の防災意識は希薄化している。高める努力を続けたい」と話した。

協議会は、昨年9月に茨城県で発生した鬼怒川決壊を受け、国土交通省木曾川上流河川事務所(岐阜市)が愛知、岐阜両県の計24市町と両県の土木事務所、名古屋地方気象台などに呼び掛けて発足した。